

## 発生再生生物学分野の浅岡洋一助教が2012年度吉田奨励賞を受賞

このたび、難治疾患研究所発生再生生物学分野の浅岡洋一助教が、2012年度日本比較生理生化学会第21回吉田奨励賞を受賞しました。この賞は、優れた研究を行っている若手研究者を日本比較生理生化学会が毎年若干名表彰するものです。総合研究大学院大学で開催された第34回日本比較生理生化学会大会にて、表彰状及び副賞の授与式が執り行われました (2012年7月)。受賞課題は、「ストレス応答性MAPキナーゼシグナル伝達系のゼブラフィッシュ初期胚における役割の解明」です。



浅岡氏は東京大学大学院時代に小型魚類を用いて光受容細胞特異的な遺伝子発現を研究した実績を持ち、その過程でトランスジェニック個体の作出や遺伝子ノックダウン技術を学びました [1]。同氏は博士の学位 (理学) を取得後、発生再生生物学分野の仁科博史教授のもとへ助教として赴任し、小型魚類を用いたノックダウン解析ならびに変異体解析を通して、初期形態形成過程におけるWntシグナル伝達の重要性を明らかにしました。すなわち、ストレス応答性MAPキナーゼであるJNKシグナル伝達系が、原腸形成過程においてPCP (平面内細胞極性) 経路のリガンドであるWnt11の発現レベルを適切に制御することにより、協調的な原腸形成運動を生み出すことを見出しました [2, 3]。さらに肝臓形成不全メダカ変異体の解析により、レチノイン酸シグナルが下流に位置する *wnt2bb* 遺伝子の発現を誘導し、肝臓の特異化を決定することを証明しました [4]。浅岡助教は現在、初期胚形成不全メダカ変異体や肝機能不全メダカ変異体の解析を精力的に進めており [5]、今後さらなる活躍が期待されます。

なお本研究の一部は科学研究費補助金の助成を受けて行われています。

### Reference:

- [1] Asaoka *et al.* *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.* 99: 15456-15461 (2002)
- [2] Seo & Asaoka *et al.* *J. Cell. Biochem.* 110: 1022-1037 (2010)
- [3] Asaoka & Nishina *J. Biochem.* 148: 393-401 (2010)
- [4] Negishi *et al.* *Hepatology* 51: 1037-1045 (2010)
- [5] Asaoka *et al.* *Dis. Model. Mech.* (in press)

関連リンク: 日本比較生理生化学会 吉田奨励賞 (<http://jscp.org/ja/100/>)